学　校　便　り　　琢磨

令和３年度　第６号　R3.5.14 三豊市立詫間小学校

HP https://mitoyo.schoolweb.ne.jp/mitoyo/takuma-e/

栄光を讃える！

５月９日（日）。観音寺総合運動公園競技場にて、第５３回近県陸上競技カーニバルが開催され、本校の５、６年生が出場しました。

入賞者は以下のとおりです（敬称略）。おめでとうございます。

【１００ｍ走】

６年女子　第２位　山下　稀歩理　14 秒 47

６年女子　第４位　松村　みそら　14 秒 69

６年男子　第２位　資延　侑梨弥　13 秒 68

【男女混合４×１００ｍリレー】

６年　　第１位　詫間小Ａチーム　56 秒 22

松村　みそら　　資延　侑梨弥　　山下　稀歩理　　妹脊　心

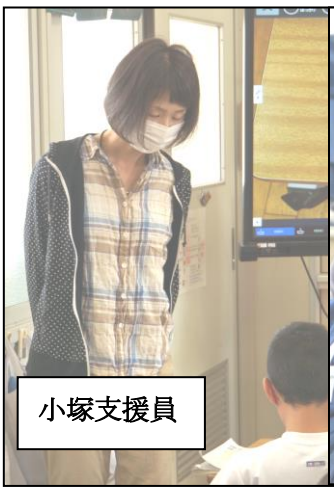
第４位　詫間小Ｂチーム　58 秒 08

山口　有愛琉　　大山　斗亜　　西川　麗王　　田尾　友里愛

５年　　第５位　詫間小Ａチーム　１分 02 秒 78

松田　歩実　　倉本　恭一　　曽根　碧人　　林本　紗空

新しい支援員２名が赴任しました！



小塚支援員

溝渕支援員

このたび、新たに２名の支援員が赴任いたしましたので紹介します。

５月６日から、小塚　由佳 支援員が本校に赴任し、２年生の各クラスの支援を行っております。（左写真）

また、５月１０日からは、溝渕　優心 支援員が赴任し、同じく２年生の各クラスの支援を行っております。溝渕支援員は、今後、他の学年の支援も行う予定です。（右写真）

どうか、よろしくお願いします。

「真鍋校長の独り言」　その５

観光ホテルでのアルバイト

私が大学生の時に住んでいた山梨県は、言わずと知れた観光地です。富士山、富士五湖、忍野をはじめ、石和温泉、昇仙峡など、有名な観光地がたくさんあります。

学生がアルバイトを探す方法は、今ならインターネットでしょうが、当時は大学の掲示板のアルバイト募集の貼り紙が主なものでした。しかし、それ以上に多かったのが、友達の紹介だったのです。

ある日、親友の片岡君が私の部屋にやってきて、こんなやり取りがありました。

「真鍋、次の土日、泊まりがけで観光ホテルのアルバイトに行ってくれないか。２日で１万円。交通費は別に支給される。俺も、一緒に行くんだけど、次の土日は人手が足りないんだ。」

「いいけど。どんなことするんだ？その観光ホテルのアルバイト、片岡は、ずっとやってんのか？」

「１年生の時に、上田先輩（スピードスケート部の３学年上の人）に紹介されて行ったんだ。それから忙しい時に助けてくれと、ホテルから連絡が来るんだ。次の土日は、団体客で満室なんだって。まあ、やる事は、食事の準備とか片付け、布団を敷くとか･･･。何とか頼めないか？」

というわけで、私は、親友の片岡君と一緒に、有名な観光地の大きなホテルでアルバイトをすることになったのです。当時は、１時間５００円位がアルバイト代の相場だったので、２日（１３時から翌日１２時まで）で１万円もいただけるというアルバイトは、なかなかすごいアルバイトでした。

土曜日の午後１時前にホテルに着きました。着いた瞬間から、持っていた荷物は事務所に放り込んで仕事の開始です。まずは、１００人を超える宴会場の掃除。そして、お膳のセット。従業員の方がするのを見て、同じように並べていきます。１時間くらいで終わりました。いきなりだったので、かなり疲れましたが、次の部屋に連れて行かれました。何と、ここは２５０人の宴会場。同じく、掃除をして、お膳を並べていきます。先ほどと、少し違った用意です。間違うと、従業員の方に怒鳴られます。ゆっくりはできません。遠くから、「お客様が到着したよ。」と叫ぶ声が聞こえてきました。

全ての準備が終わったのが、午後６時前でした。すぐさま、宴会が始まります。今度は、料理をどんどん運んで出していきます。従業員の方と２人一組で、何百人もの料理を延々と出し続けていくのです。その途中で、「おーい、おにいちゃん、ビール１０本。」とか「次の料理を早く出して。ずっと待ってんのよ。」といったお客様の注文にも応じなければいけません。実は、お客様が宴会をしている間に、もう一つのチームは、部屋に布団を敷きに回っているのです。このホテルの従業員とアルバイトが何人いるのかは分かりませんが、とにかく誰一人、１分たりとも休んでいる人はいないのです。

夜の１１時。１０時間ぶっ続けで働いて、やっと、従業員の食堂で遅い夕食が出ました。この時、私は初めて着物姿の「若女将さん」に挨拶をされました。アルバイトの学生は、私と片岡君を含めて、１０名ほどいましたが、若女将さんは、何と全員の名前を覚えていたのです。話す元気もなく、とにかく夕食をひたすら食べている私たち一人一人に、若女将さんは、声をかけてくださるのです。「あなたは、真鍋君ね。今日が初めてなのね。大変だったでしょう。たくさん食べてね。そうそう、真鍋君は、香川県出身なんだってね。私、一度、金比羅さんに行ったことがあるのよ。」と笑顔で。

後で、従業員の方に、「若女将は、本当に立派な人だ。いつも、こうやって、食事の時には、女将さんは、自分は食べずに、従業員一人一人に声をかけてくださる。時には、遅くまで悩み事を聞いてくださる。でも、次の日の朝は、５時半には、もう起きて、いや、着物姿で事務所にいるんだよ。」と教えていただきました。私は、ホテルの（１０歳も年が変わらない）女将さんという仕事がどんなに大変なのか、そして、人の上に立つ人間はどうあるべきなのかを、この時に実感させられました。

私と片岡君は、朝食会場となる宴会場の端に布団を敷いて眠りました。翌朝は、５時半から朝食の準備が始まりました。翌日も朝食の準備と片付け、布団の片付け、部屋の掃除と休む暇もなく働き、お客様が出発した後も仕事を続け、正午に長かったアルバイトを終えました。私たちは、これから休めます。でも若女将さんや従業員の方は、これからも昨日と同じ仕事が続くのです。

私が、このホテルのアルバイトをしたのはこの２日間だけでした。いつか、お客としてこのホテルに泊まると、帰り際に若女将さんに約束しましたが、その約束は４０年近く経った今でも果たすことができていません。コロナが収まり、定年退職したら、ぜひ行ってみたいと思います。